

入場
無料

市民公開講座

優しさを伝えるケア技術：

ユマニチュード

日時 2015年2月22日（日）
13:30-16:30

会場 一橋大学一橋講堂
東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
学術総合センター内

日本の看護師・介護士が語る現場からの報告

基調講演 ユマニチュード

Yves Gineste

仏 ジネスト・マレスコッティ研究所所長
静岡大学客員教授
国立病院機構東京医療センター客員研究員

参加事前登録制

申し込み：

info@seizon.or.jp

シンポジウム 「日本の看護師・介護士が語る現場からの報告」

郡山市医療介護病院

宗形初枝（看護部長） 遠藤淳子（看護師） 香山壮太（介護士）

静岡大学情報学部

石川翔吾

司会:伊東美緒（東京都健康長寿医療センター）

共催

公益財団法人生存科学研究所
国立病院機構東京医療センター

市民公開講座 「優しさを伝えるケア技術：ユマニチュード」

市民公開講座開催にあたり

生活環境や医療技術の進歩にともなって長寿国となった日本では、高齢者へのケアの必要性も高まっています。ケアが行われる場所は家庭、長期療養施設、病院とさまざまですが、ケアを必要とするひと、とりわけケアの受け入れが困難な状態にあるひとに、穏やかにケアを受け入れてもらうにはどうすればよいのかについて、それぞれの現場では試行錯誤が続いています。

フランスで生まれ、35年の実績をもつケアメソッド・ユマニチュードは、知覚・感情・言語による包括的なコミュニケーションに基づくケアの技法で、ケアの現場が直面している問題への解決策のひとつとして注目され、初めて日本へ紹介されてから3年がたちました。

2回目となる市民公開講座では、この技法の創始者のひとり、イブ・ジネスト氏の基調講演のほか、日本で初めて施設単位で導入を試みた福島県の郡山市医療介護病院の方々に自らの体験を語っていただくとともに、このケアを情報学の観点から分析研究を行っている研究者を交え、より良いケアについて考える機会としたいと思います。

市民公開講座実行委員会

プログラム 2015年2月22日(日)

13:30 開会の辞

松下正明 東京都健康長寿医療センター 理事長

13:35 基調講演「ユマニチュード」

Yves Gineste

仏 ジネスト・マレスコッティ 研究所所長

15:05 休憩

15:20 シンポジウム

「日本の看護師・介護士が語る現場からの報告」

郡山市医療介護病院：宗形初枝 遠藤淳子 香山壮太

静岡大学情報学部：石川翔吾

司会・伊東美緒 東京都健康長寿医療センター

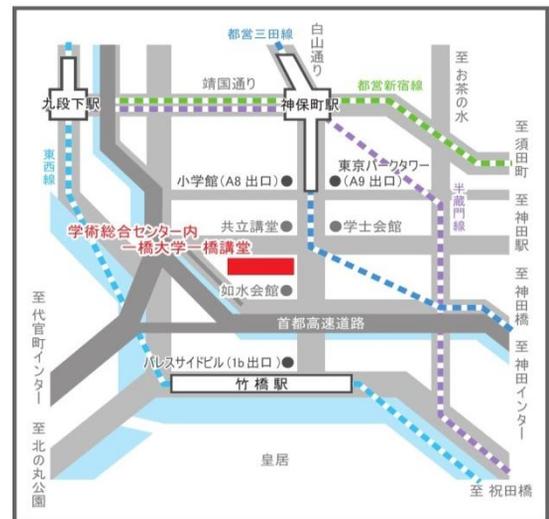
16:10 質疑応答

16:25 閉会の辞

武田純三 国立病院機構東京医療センター 院長

会場のご案内

一橋大学一橋講堂への経路



【一橋大学一橋講堂】
〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内

東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅 (A8・A9 出口) 徒歩 4 分

※A8 出口は、近隣ビルの工事のため平成 25 年 10 月 5 日から閉鎖しております。

お越しの際には A9 出口をご利用ください。

東京メトロ東西線 竹橋駅 (1b 出口) 徒歩 4 分

公益財団法人 生存科学研究所

本研究所は、急速な科学の進歩により生じる新たな危機から人類をまもるため、凡ゆる領域から総合的に『生存』問題に取り組む研究所として、医師会会長を長く務めた故武見太郎先生により1984年に設立されました。

その活動はホームページ (<http://seizon.umin.jp>) に掲載されています。会員は生存科学に関する自主研究を様々な視点から行い、講演会、シンポジウム、あるいは学術誌「生存科学」を通じ、広く一般の方々とその成果を共有するよう努めております。

独立行政法人 国立病院機構・東京医療センター

当院は患者のみならずともに健康を考える医療の実践を理念とする総合病院です。1884年に海軍軍医学校第二付属病院として誕生し、その後1945年に国立東京第二病院、2004年に国立病院機構東京医療センターと名称を変更し現在に至ります。感覚器疾患の高度専門医療施設の機能をもつ一方、地域社会の健康を支える地域医療支援病院でもあります。

とりわけ総合内科は総合診療の分野では日本でも有数の歴史と規模を有し、老年医学にも力を入れています。